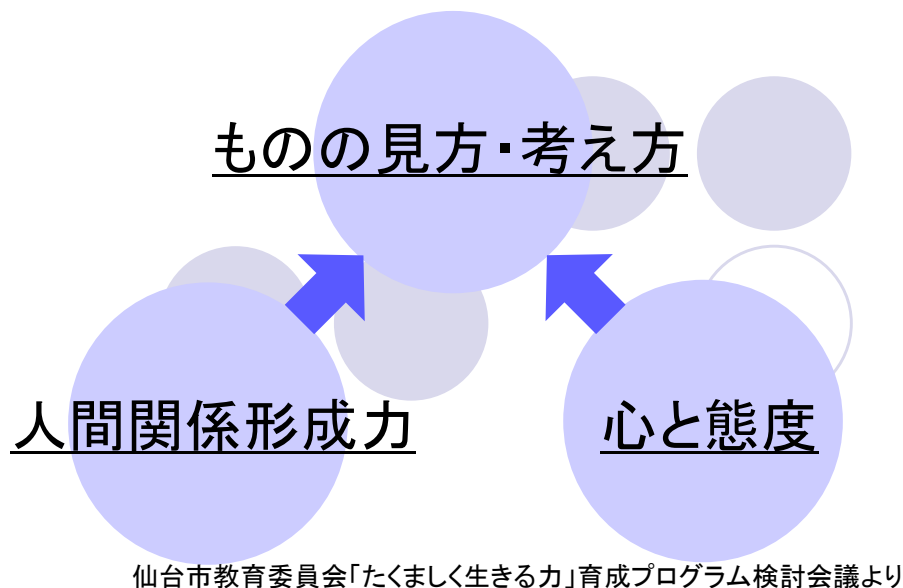


たくましく生きる力とは…



たくましく生きる子どもの姿

心と態度	感謝の心をもつことができる子、自主自律、感謝→お礼の気持ちをもってがんばる→喜んでもらったことのうれしさを味わう→かかわり合うことよき、生命を大切に、前向きな姿、自分のことは自分でできる、自信をもつ、震災を言い訳にせず、当たり前ことをしっかりやる、やさしい子、感謝と謙虚を忘れない子、元気な子、衛生に気をつける子、自分の意思表示をはっきりできる
人間関係形成力	「町たんけん」を通して復旧のために努力をした人の思いを感じ取る、人にしてもらったことで自分でできることをやっていく、人のために何が出来るかを自分で考えて行動できる子、人のためになることを進んで考えたり実践したりできる子、思いやりの心をもつ、感謝の思いを素直に言える子、相手を気遣う言葉遣いのできる子、相手の立場を考えられる子、互いのよさを認め合うことができる、あいさつができる子、みんなでいっしょにがんばる、自分からコミュニケーションを取ることができる
もの見方考え方	正しい知識のもとで適切な判断ができる子、多角的に物事をとらえることのできる子、外に視野を広げる、自分ができていることを精いっぱい実践していく中で徐々に周囲に目を向けていくようにする、社会に目を向ける子、まずは七郷の地域を知る、多くの人のおかげで自分たちが生活できていることに気付くことができる、みんなの幸せが自分の幸せになる

目指す子ども像の設定

自分が元気 = 心と態度

・自信をもって前向きに行動し、自分の意思をはっきりと伝えることができる子ども

まわりが元気 = 人間関係形成力

・互いの良さを認め合い、思いやりの心で自分からコミュニケーションを取る子ども

地域が元気 = もの見方考え方

・広い視野で多面的に物事を考え、地域のために行動していくことができる子ども

研究の柱

柱1

生活科や総合的な学習の時間で単元を設定しての実践

- 低学年は生活科で、中学年は総合的な時間の中で震災復興につながる学習内容
- 高学年では小単元を創造していく
- 外部との連携が鍵となる
- 主に「もの見方・考え方」につながるもの

研究の柱

柱2

ふだんの教
科学習の中
での実践の
積み上げ

- 教科学習の中で震災復興につながる学習内容
- 教科としてのねらいの中で震災復興のポイントを強調するなど
- 社会, 音楽, 図工, 道徳
- 主に「心と態度」「ものの見方考え方」につながるもの

研究の柱

柱3

主に**学校行
事**や児童会
などの**特別
活動**におけ
る実践

- 学校行事の中で考えられるもの(全校児童の活動)
- 各委員会の活動で
- 復興プロジェクトを児童会主体のもとで
- 学級活動で行う防災教育
- 主に「人間関係形成力」につながるもの

仙台自分づくり教育とは…

仙台自分づくり教育

= 仙台市版キャリア教育

《目的》

児童生徒1人1人が確かな学力の向上を図るとともに、人とのかかわりを大切にしながら、将来の社会的・職業的自立を目指して必要な能力や態度を育み、社会人としてより充実した生き方を切り開いていく。

仙台市教育委員会確かな学力育成室・小田先生資料より

仙台自分づくり教育の5つの力

かかわる力	他人のよさや個性を理解できる力, 考えや気持ちを伝え合い協力できる力, 人や地域を大切にする力
みとおす力	将来を見通す力, 物事を見分ける力, 興味や関心をもち学ぶ意味を理解できる力
うごく力	何事もやり通す力, 物事を評価し改善につなげる力, 歩み出し積極的に挑戦する力
いかす力	調べる力, 働くことの意味を考える力, 情報を生かす力
みつめる力	自分のよさや他人との違いを理解できる力, 自分の役割が分かる力, ストレスをコントロールする力

仙台市教育委員会確かな学力育成室・小田先生資料より

自分づくり教育と震災復興学習

仙台自分づくり教育

七郷小震災復興学習

将来の社会的職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育む。

未来に向けて希望をもちながらたくましく生きようとする児童の育成を目指す。

かかわる力

みとおす力

うごく力

いかす力

みつめる力

心と態度

人間関係形成力

ものの見方考え方

指導の実際

◆1年生活科「あそび名人になろう」



- 今までは祖父母に来ていただいた活動
→今回は**仮設住宅を訪問して**交流
- 1回だけでなく3月まで**継続して**訪問する予定

指導の実際

◆2年生活科「町たんけん」



- 今までの町たんけんに加えて...
 - 震災後の町の様子を見てくる活動
 - 震災時の様子を**インタビューする**活動

指導の実際

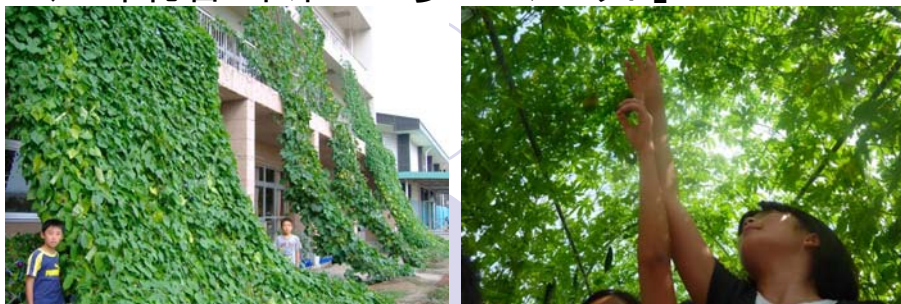
◆3・4年総合「震災復興」「大豆のひみつ」



- 3年では...震災復興の**単元を創設**
震災マップ, 被災体験作文, 震災復興レポート
- 4年では...今までの**単元を継続**
いぐねの畑を借用, 大豆の栽培, みそ作り

指導の実際

◆5年総合「未来へ一歩プロジェクト」



- ミッション1...緑をふやそうプロジェクト
- NPOの協力で緑のカーテンを実現させる
- 実の配布とへちまたわしプレゼント(情報発信)

指導の実際

◆5年総合「未来へ一歩プロジェクト」



- ミッション3...震災復興絵馬プロジェクト
- 東北工業大学 近藤・篠原研究室との連携
- 復興の願いをこめた絵馬の製作と展示

指導の実際

◆6年総合「ふるさと七郷～ともに立ち上がろう」



- 学区内の被災状況の見学と清掃活動
- 地震の仕組みを科学的に理解する特別授業
- 児童の思いをくみ上げた4つの課題を設定

指導の実際

◆6年総合「ふるさと七郷～ともに立ち上がろう」



- 課題ごとによる調査・実践活動の展開
- 活動紹介と未来の七郷への思いを発表する
- アレンジした花を家族や仮設住宅の方々へ

指導の実際

◆特別活動「震災復興プロジェクト」



- 仙台市一斉の復興プロジェクトを**主体的に行う**
- 新たな活動として...
- 清掃活動, たてわり活動, 励ましの手紙へのお

成果と課題(中間反省)

たくましく生きる力の3要素

心と態度	<ul style="list-style-type: none"> ○生命の大切さを意識するようになった ○郷土を愛する気持ちが出てきた ○復興への強い願いが見られた
人間関係 形成力	<ul style="list-style-type: none"> ○老人ホームや仮設住宅の方との交流 ○グループで協力して活動していた ○活動の中でインタビューしていた ○感謝の思いを伝えることができた
ものの見方 考え方	<ul style="list-style-type: none"> ○お世話になっている人の存在に気付く ○できることを考えて実践につなげてた ○自分の未来, 地域の未来を考えた ○情報発信やつながることで励まされたり感謝されたり=自己肯定感

成果と課題(中間反省)

震災復興学習プログラムの創造

- 生活科や総合的な学習の時間において
 - 今までの学習に復興の視点を加えたもの
 - 震災復興の小単元を新たに開発したもの
- 発達段階に応じた学習プログラム
 - 思いや願いを実現させる学習
 - 未来を想像(創造)する学習
- 理科, 図工, 体育, 学活, 児童会などでも
- △ふだんの教科での取り組みは少ない
- △防災教育としての取り組みも

成果と課題(中間反省)

外部とのつながりや継続

- 外部とのつながりをもった学習の展開
 - 大学, 行政, 民間, NPO, 気象台
 - 地域(家族, 仮設住宅, お店など)
- 全国や海外からの支援や励まし
 - 感謝の気持ちを表す活動(学年・全校で)
- 1回で終わらず継続した活動が見られた
- △次年度も継続していくことができるか

